

アグラオネマ

サトイモ科 ARACEAE

属名 **Aglaonema** [アグラオネマ] リョクチク属**英米発音** アグレイオーニーマ [ag-lay-oh-NEE-muh]**属名由来** 命名 ショット、1829年。雄しべの花糸の形質に因む。古代ギリシア語のアグラオス (ἀγλαός <aglaos>) は光り輝く、澄んだ、の意、ニーマ (νήμα <nema>) は糸、より糸、クモの糸、などの意味。**分布** 熱帯。マレーシア、ボルネオ、タイ、フィリピン、インドネシア、中国などのアジア。**植生** 常緑/多年草。地生。熱帯低湿地または熱帯雨林に自生。高さ20cm~1.5m。**メモ** 種の数：約20。日陰に強い。適応できる光の強さの範囲が広く、光量の少ない屋内でも生育する。熱帯原産のため寒さに弱く、日本では常温での越冬は難しい。寒冷期は保温または加温の設備が必要。▼葉や草姿はディフェンバキアに似るが、本属のほうがやや小ぶり。**茎・幹** 直立、匍匐。[地下茎・根] 根茎性。**葉** 中心の生長点から鞘のある葉柄が出て、その先端に肉厚で光沢がある葉身がつく。斑入りものが多い。種により葉の長さ10~45cm、幅4~16 cm程度。[葉縁] 波状。[葉身] 長楕円形、楕円形、狭披針形、卵形、披針形、広楕円形、種により異なる。**花** クリーム色または緑白色の仏炎苞に囲まれて目立たない。[花序] 肉穂花序。[開花期] 不定期。**光の条件** 1 日陰 2 明るい日陰 3 半日陰 4 明るい半日陰 5 直射日光 ※直射日光では葉焼けを起こす。年間を通して半日陰または明るい日陰で育てる。**温度性質** 1 強耐寒性 2 耐霜性 3 半耐寒性 4 非耐寒性 [耐寒温度] 7~13℃ [生育適温] 20~30℃**空中湿度** 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿ぎみ 5 多湿**土壌湿度** 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿 5 水浸**栽培用土** 水はけ・通気がよく、保水力がある土。[肥沃度] 中程度~肥沃。[用土例] 水ゴケ / 壤土6+腐植3+砂1 ※小株は水ゴケ類、中株以上は培養土を用いるほうが扱いやすく、また、経済的。**肥料** [元肥] 標準。[液肥] 生育期に月1回。**植付け・植替え** 根腐れしやすいので、できるだけ水はけをよくして植える。根詰まりしたものは植え替える。**水やり** 頻繁すぎる水やりは茎腐れ、根腐れのもと。**手入れ** 枯れた葉を取り除く程度とし、放任でよい。**冬越し** 低温に弱く、温帯での越冬は難しい。寒気にあうと下葉から枯れる。15℃以上の温度が必要。日中は温かい窓辺に置き、まめに霧吹きする。夜間は温室に入れるか、ポリエチレンの袋で覆い、寒風を遮り、保温・保湿する。**繁殖** [繁殖方法] 株分け、挿し芽、茎伏せ。※茎差しはできるだけ根のついたものを挿す。寒さで傷めた株や育ちが悪い株、姿の乱れたものは、株分けや挿し木、茎伏せをして新しい株を作るとよい。茎伏せの場合、半分ほど隠れるくらいに水ゴケや砂に埋める。